



顧客本位の業務運営に関する取り組み状況

2022年3月現在

UBS アセット・マネジメント株式会社

1. 「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」の更新(原則2に対応)

2021年にUBSグループでは、以下のパーパス(存在理由)を公表しました。

“Reimagining the power of investing. Connecting people for a better world.”

また、アセット・マネジメント部門では、同じく2021年に次をバリュープロポジションと定めました。

“Sustainable outcome, without compromise”

パーパスは、投資の持つ力を改めて認識し、世界中のステークホルダーをつなげてより良い世界を築くということを宣言し、グローバルで活動を行う資産運用を中心とした金融機関として責任ある投資を前提に、株主、顧客、従業員、取引先その他のすべての関係者のために活動することを誓うものです。

また、バリュープロポジションは、持続可能な企業活動を通じて顧客の安定的な資産形成のために全力を尽くすとともに、サステナブル投資の推進を通じて、資産運用会社として持続可能な社会の実現に貢献することをその目標としています。

これらを受けて、アセット・マネジメント部門の日本法人である当社においては、「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」を更新しました。詳しくは本取り組み状況と同じホームページにあります、「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」をご参照ください。

※当社は、金融庁が公表した「顧客本位の業務運営に関する原則」に掲げられた7つの原則を採択し、当社の取り組み方針及び取り組み状況を公表しておりますが、当社は投資運用業を行っており、「原則5. 重要な情報の分かりやすい提供」の(注2)および(注4)、「原則6. 顧客にふさわしいサービスの提供」の(注1)、(注2)および(注4)は該当しません。

2. Client Experience 向上会議における取り組み

「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」の下、「Client Experience 向上会議」において、取り組み方針の年次見直しを実施し、更新を行いました。

また、当社のみならず業界全体における取り組み状況を定期的に確認いたしました。

当社が継続して推進して参りました各取り組みの進捗状況は以下の通りです。

「重要な情報の分かりやすい提供」への継続的な取り組み（原則4, 5, 6に対応）

「重要な情報の分かりやすい提供」を推進するべく、主に以下の点に継続的に取り組んでいます。



- 当社ウェブサイトの継続的な見直し
今般、会社情報や注力分野(サステイナブル投資とインパクト投資など)についての取り組みを分かりやすくご紹介するとともに、代表取締役あいさつを加えるなど、情報発信力を強化する目的で、当社ウェブサイト全般の見直し実施しました。
- お客様向け資料(旧:販売用資料)および目論見書における取り組み
当社が提供する運用商品の特長やリスク、魅力を分かりやすくお伝えする取り組みとして、お客様向け資料(旧:販売用資料)および目論見書の改善を継続しております。なお、信託報酬や外国籍投資信託に投資する場合にかかる費用などの手数料については、お申込みメモや目論見書等を通じて分かりやすい表示を継続しています。
- 投資関連情報の提供力強化への取り組み
お客様の投資リテラシー(情報・知識の活用能力)向上に貢献できるよう、販売会社との連携強化や情報提供力の強化に努めています。
コロナ禍においては、オンラインを中心としたセミナーを販売会社のご担当者に開催することで、当社設定ファンドの特長や魅力をより深くご理解頂けるよう努めました。ご好評いただいている、販売会社のご担当者向けに、ランチタイムの限られた時間に目を通していただけるとお役に立つような、わかりやすくかつ独自の視点を提供するマーケットレポートの提供も継続しています。
- 重要情報シートを通じた情報提供
販売会社より提供される重要情報シートを通じてお客様へ適切な情報開示がなされるよう、当社設定ファンドに関する商品特性や顧客属性などについて、販売会社への情報提供を行っております。

「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティの維持（原則 2, 6 に対応）

- 営業部門とクライアント・サービスの緊密な連携による「顧客中心主義」を意識したサービス・クオリティを維持し、投資家のお客様から直接頂いたお問い合わせに迅速かつ的確にお答えしております。
- またコロナ禍における緊急事態宣言下等においては、代表電話へのお問い合わせに対し留守番電話対応とさせていただきましたが、受電を自動でメールで連絡を受ける機能を設定することで、職員の在宅勤務比率を上げさせていただきながら迅速に折り返しお応えできる体制を継続しました。

利益相反の適切な管理（原則 3 に対応）

利益相反管理の重要性と管理体制を周知し、適切な管理を行うため、以下の取り組みを行っています。

- 利益相反管理方針の概要は当社ホームページにて公表しています。
- 利益相反管理を主要テーマとしたオンライン研修や利益相反管理を含むコンプライアンス研修を定期的に実施するほか、利益相反管理方針を含む重要な社内規程について、よく読み内容を理解したことをオンラインで定期的に確認する手続を、全従業員向けに実施しています。



- 各部の責任者による月次の自主点検項目に利益相反管理状況に関する項目を含めてコンプライアンス部門に報告、コンプライアンス部門は、経営に重大な影響を与える、または顧客の利益が著しく阻害される事項が発生した場合もしくはその恐れがある場合、速やかにリスク委員会に報告する体制としています。

プロダクトレビュー会議による網羅的な検証（原則 6に対応）

- 定期的に開催されるプロダクトレビュー会議において、お客様のニーズを満たす質の高いサービスを継続的に提供していることの確認を継続しております。

リスク委員会における継続的な協議（原則 6に対応）

- 月次で開催されるリスク委員会において、お客様の最善の利益の追求を目指した運用が継続されていることの確認及び適宜改善策等の協議を継続しております。
また、当社がホームページに開示した成果指標(KPI)である当社設定ファンドのリスク・リターン分布状況に
関し、ファンドのリスクと比較してリターンが不芳なファンドについては、プロダクトレビュー会議における精査
に加えて、リスク委員会においても継続的にモニターし、運用目的に沿った運用が行われていることを確認
しております。

従業員に対する適切な動機付けの枠組み（原則 7に対応）

- 従業員の評価については、単年度の業績評価だけでなく、前述のパーカスやバリュープロポジションに加え、以前より「顧客本位の業務運営を確立するための取り組み方針」に掲げております、以下の「Behaviors」といった行動指針に基づいての評価も行うことで、長期に正しい企業文化を醸成、維持することに努めています。
 - Accountability with integrity - 「責任意識を持って誠実に取り組む」
 - Collaboration - 「グループ一丸となって業務に取り組む」
 - Innovation - 「より良いサービスのために日々進歩する」
- また、質の高い資産運用サービスをお届けすべく、特に運用者の評価については、運用しているファンドのパフォーマンスも評価に反映させる仕組みとなっています。これらの仕組みが、顧客に長期に支持される資産運用会社たるために貢献するものと確信しています。また、各種トレーニングや、部門を超えたメンタリング・プログラムなども実施しており、資産運用会社の意義を様々ななかたちで社内に伝えるとともに、従業員一人ひとりの高い専門性の維持向上に努めています。



3. 成果指標(KPI)について(2021年12月末現在)（原則5に対応）

当社が開示している成果指標(KPI)である、当社設定ファンドのリスク・リターンの分布状況について、2021年12月末現在までの過去2年間の推移は以下の通りです。

概況

- リターンに関しては、どの時点も、概ね70%以上のファンドがプラスリターンを記録し、リスクの高さに比例してリターンも高くなる傾向が継続しています。

2021年の証券市場は、コロナ禍の影響が続き、また米中対立の先鋭化などによる世界経済の減速が懸念されたものの、各国中央銀行による金融緩和政策の継続や先進国を中心として財政政策などが奏功し、米国株式を中心に上昇しました。

これを受け、2021年12月末時点でも当社設定の90%以上のファンドが過去3年のリターンでプラス（過去5年では85%以上のファンドがプラス）を記録し、お客様の中長期の資産形成に貢献し得る運用商品を持続的にご提供出来ていると考えています。

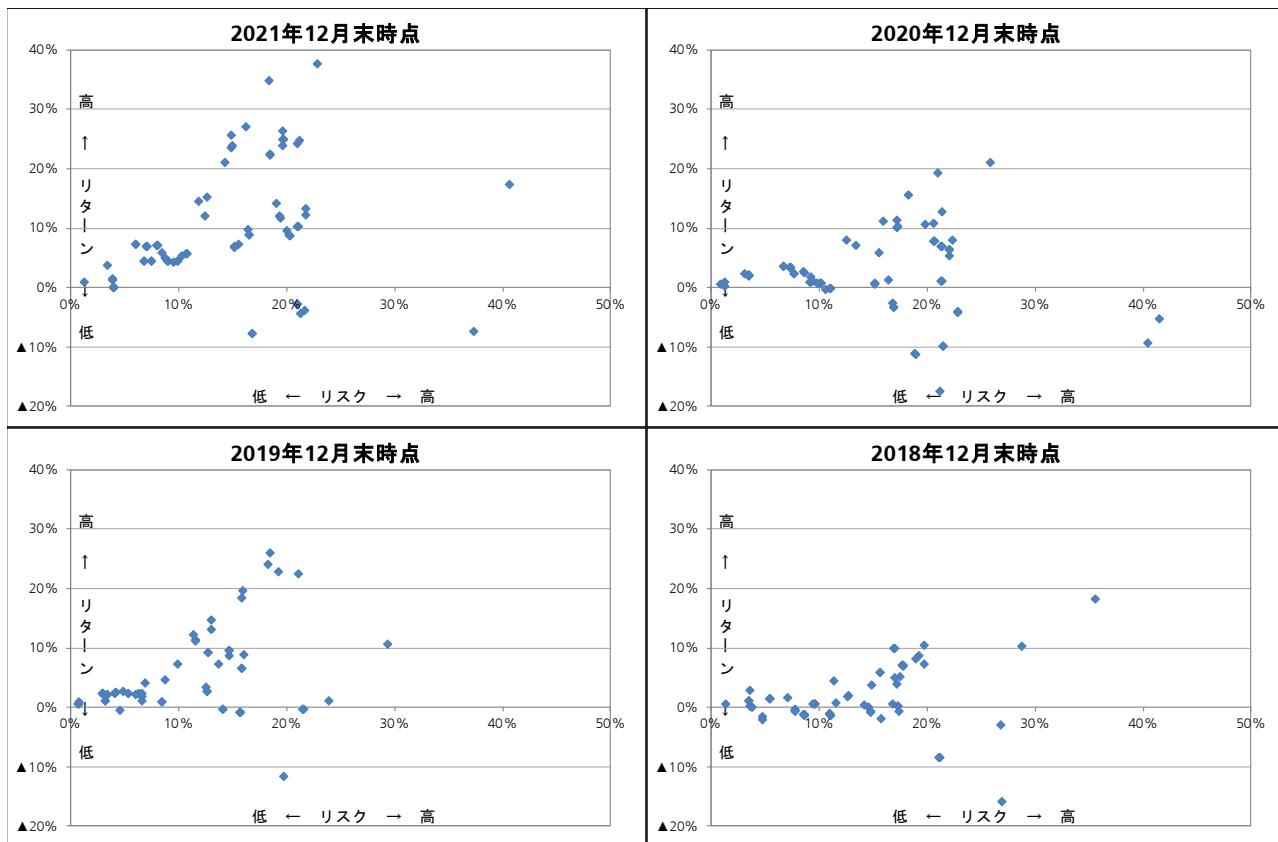
- 他方、2020年のコロナ禍の影響等から、時点によっては年率10%を超えるマイナスリターンを記録するファンドもあり、過去3年では全ファンド単純平均のリターンは、年率1.4%から9.1%の間で推移し、計測時点毎に差異が生じています。
- リスクに関しては、引き続き過去3年では全時点で全ファンド単純平均のリスクが年率13.5%から15.0%の間で推移、各ファンドのリスク水準にも大きな傾向の変化は見られませんでしたが、2021年は米国を中心とした株高の影響もあり、リスクに対してリターンが上昇する傾向にありました。
- なお、今回より、リターンとコスト（信託報酬）の関係を示す分布も掲載することとしました。おおむねコストが高い投資信託ほどリターンが高い傾向にあり、投資家の皆様に付加価値を提供できているものと考えます。

<3年リスク・リターン分布>

※各時点、設定から3年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去3年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※リスク:各時点において、過去3年分の月次リターンの標準偏差を年率換算しております。

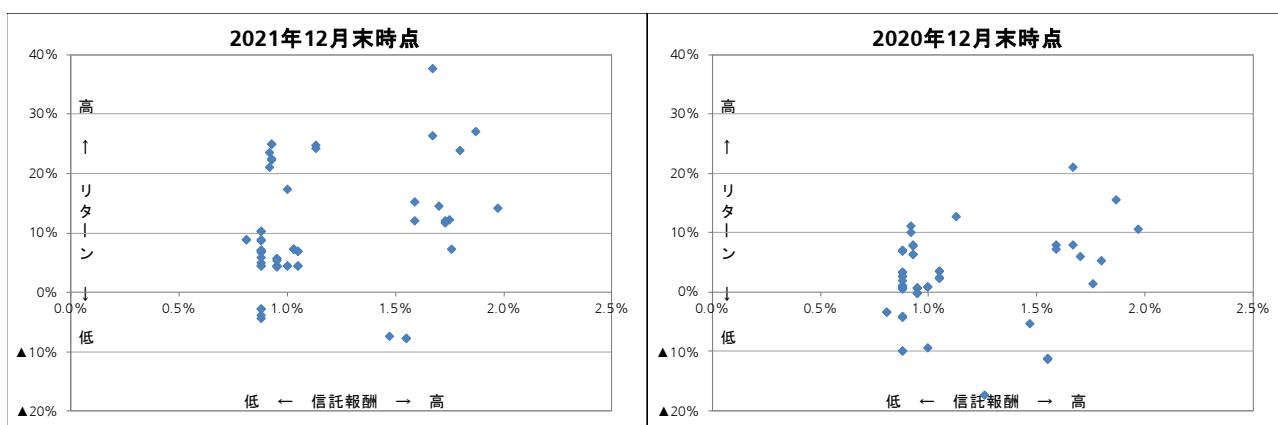


<3年コスト・リターン分布>

※各時点、設定から3年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去3年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※コスト:年間の信託報酬です。外国投信に投資するコストなど信託報酬以外のコストは含みません。

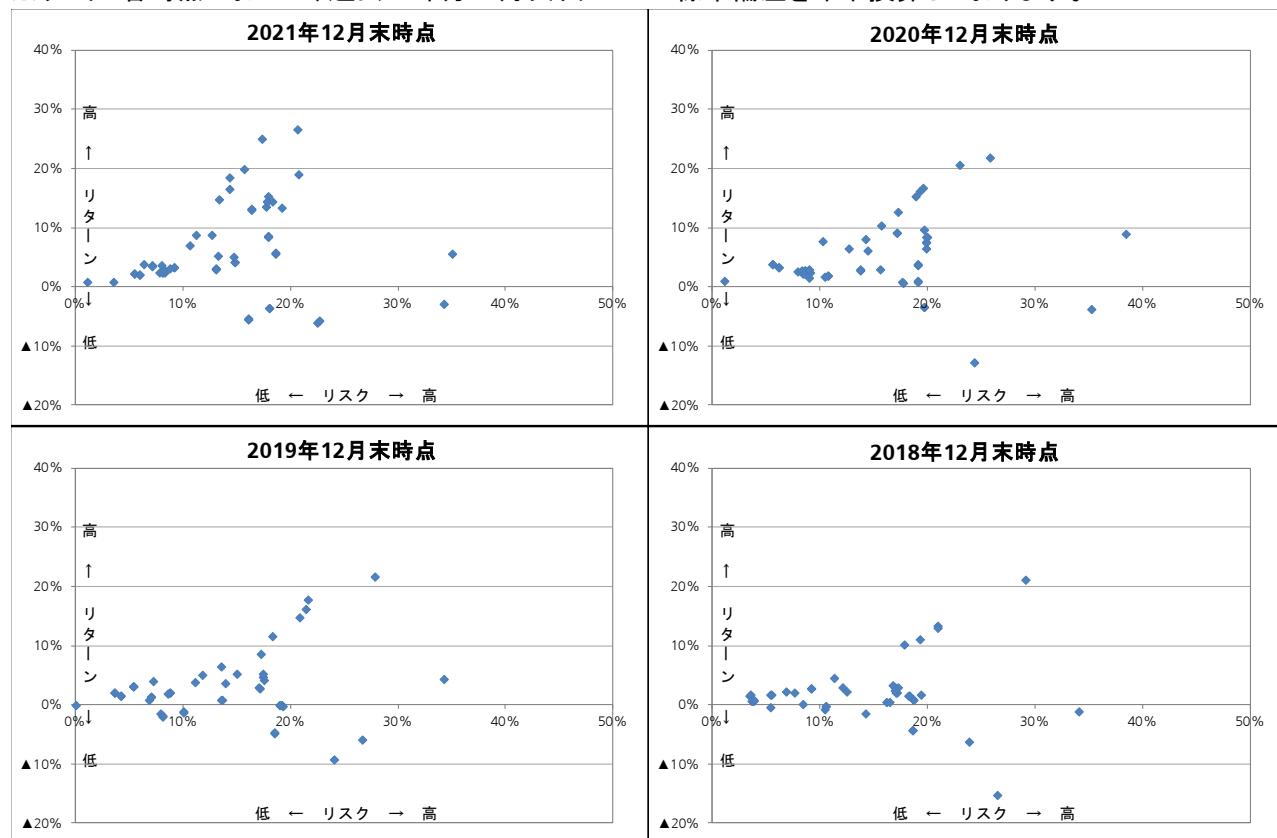


<5年リスク・リターン分布>

※各時点、設定から5年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去5年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※リスク:各時点において、過去5年分の月次リターンの標準偏差を年率換算しております。

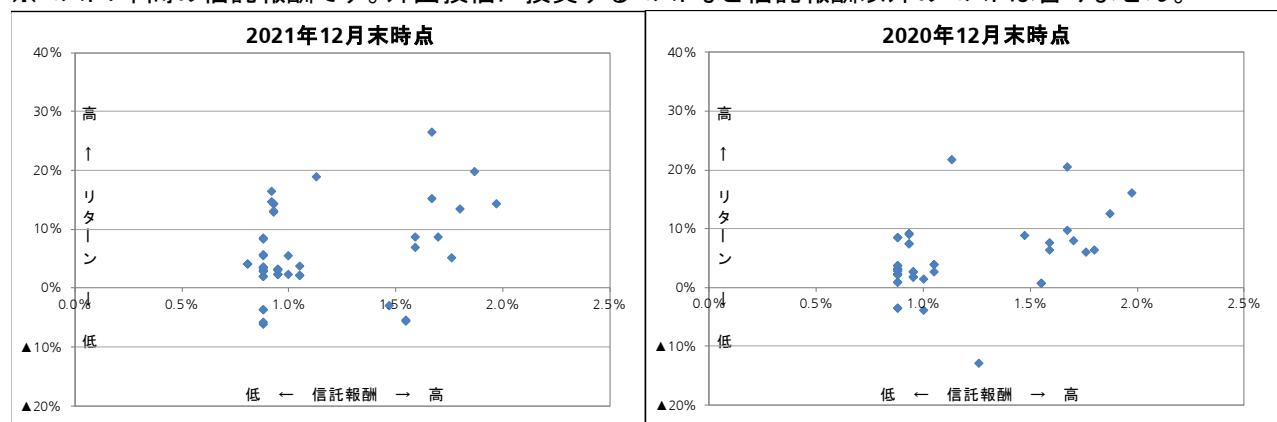


<5年コスト・リターン分布>

※各時点、設定から5年以上経過したファンドを対象にしております。

※リターン:各時点において、過去5年分の月次リターン累積値を年率換算しております。

※コスト:年間の信託報酬です。外国投信に投資するコストなど信託報酬以外のコストは含みません。



以上